

★102回 定中委での「事実上の執行権停止確認」を弾劾する!

革マル分子、陰険かつ新たな千葉地本破壊攻撃を開始!

動労第一〇二回定期中央委員会は、わが千葉地本一四〇〇組合員はもとより、全国の多くの組合員、そして、千葉地本を支援し、連帯する幾多の労働者、人民の注視の中で、三月一日(二日、伊東市・水明荘で開催された。一二月以降強めてきた数々の千葉地本排除、組織破壊攻撃がわれわれの丸となった反撃の前に一つ一つ粉碎され、追いつめられた革マルと一部反動分子は、今や、この一〇二回定中委において、わが千葉地本に対する執行権停止(再登録をなすりかまわぬ極めて反動的な暴挙をついに強行した。昨夜、一九時のNHKニュースによれば、「千葉地本が取組んでいる成田闘争は、執行権停止に備するものであり、本部が直接、組合員にオルグに入る。このオルグを拒否した場合は、千葉地本を解体し、新たな執行部と新たな組織を結成する」というものである。われわれは、満腔の怒りを込めて、こうした中央本部のファッショ的、強権的な千葉地本排除・組織破壊攻撃を弾劾しなければならない。

組織分断・千葉地本排除策動の一層の強まり

電話連絡の一方的停止
動力車新聞の家庭郵送など

中央本部は、千葉地本に対する電話連絡第三六九号(二月一六日発行のもの)をもって一方的に停止して以降、電話連絡はもろろんのこと一切の指令・指示をストップすると同時に、千葉地本内各支部と全組合員に対し、「動力車新聞号外」や「電話連絡」を郵送している。

こうした中央本部のやり方は、千葉地本に対する事実上の執行権停止であり、組織分断・組織破壊行為そのものである。

そして、わが千葉地本の正当な「五項目解明要求」に対し、「デマにもとづく解明要求(動力車新聞号外)」などと居直りとするかえをもっているのがれようとし、「機関決定を守らない千葉地本」などと問題の本質をずらし、官僚的ドウカツをもって、千葉地本排除(組織破壊攻撃を強め、第一〇二回定中委において「万場一致」をもって千葉地本執行権の停止をなになんでも強行しよう」と目論んでいたのである。

中執委、「千葉地本執行権停止」を提案出来ず

しかし、わが千葉地本は、五項目解明要求をもつてする一・三一交流会議以降の毅然たる態度、「日刊動労千葉」を中心とする圧倒的情宣活動さらには、二・一〇、臨時地本大会の圧倒的成功と四つの闘う方針の確立をもって、全国的に大き

な流動的状況をつくり出してきた。こうした流動化する情勢の中で、中執委は、第一〇二回定中委に対して「千葉地本執行権の停止を提案出来ず、わが千葉地本の正義性ゆえに革マルと一部反動分子の当初の目論みは完全に粉碎されたのである。

第一〇二回定中委、千葉地本に対する事実上の執行権停止を確認

しかし、第一〇二回定中委は、「千葉地本は敵対である」と規定し、「執行権停止に備する」ということを確認したのである。

このことは、何を意味するのか!それは、千葉地本の正当な要求と主張を一切無視し、革マルと一部反動分子の「デマと居直り」に基づく「千葉地本は、機関決定違反」を承認することなのである。

そして、革マルと一部反動分子は、この第一〇二回定中委における「確認」をテコとして「万場一致」をもってするより陰険な、しかも新たな千葉地本排除(執行権停止攻撃を目論んでいるのである。

われわれは、全国の同志と共に、さらに一層団結を打ち固め、革マルと一部反動分子による動労私物化策動を阻止し、四つの闘う方針を高々とかけ、八〇年代労働運動の展望を切り開く動労運動の再生にむけて断固として闘い抜こう!

千葉地本の決意と態度はゆるみず。400は正義の大道を邁進